

第1回歴史文化資料保全西日本大学協議会 開催報告

開催概要：

2018年1月、神戸大学と東北大学と人間文化研究機構との三者で「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」についての連携協定が締結されました。人間文化研究機構では、この協定を軸に全国各地で「歴史資料ネットワーク」（以下、史料ネット）などの活動を推進する大学との連携構築を通じて、資料調査とデータ記録化、広域的相互支援体制の確立、資料保存研究等の歴史文化資料保全事業を推進しています。

このプロジェクトの一環として、西日本を中心とした史料ネットの事務局がある大学関係者とともに、歴史文化資料の保全のための大学機能強化、大学間ネットワークと相互支援体制の構築を図るため、2018年9月24日に、「歴史文化資料保全西日本大学協議会」を開催しました。

第1回となる今回は、大阪北部地震・西日本豪雨災害・台風21号被害への対応の現状と課題を共有するとともに、今後発生し得る南海トラフ地震等の大規模災害への広域対応及び支援体制のあり方について、活発な議論が交わされました。そこでは、大学間だけでなく、大学と行政・自治体との関係構築の課題と可能性に焦点が当てられ、大学が単独で地域調査や保存活動を進めることの限界性とそれを解消するための地域連携の考え方について議論が深められました。また、大量の水損資料の処置にあたっては、各大学内の保有施設（冷凍施設や真空凍結乾燥機）について、理系学部との情報共有を図っておくことも重要であることなどが指摘されました。

災害対策も含め、地域社会における資料保存のあり方、さらには大学が地域の知的拠点として存立するための多角的な連携について、各地の課題と取組を相互共有しつつ、今後さらなる協議が必要とされます。



日時：2018年9月24日（月・祝）13:00～17:00

会場：新大阪丸ビル「新館」・509 会議室（大阪市東淀川区東中島 1-18-27）

主催：神戸大学大学院人文学研究科、人間文化研究機構

協力：科学研究費基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」（研究代表者：奥村弘）研究グループ

プログラム：

- 開会挨拶：佐藤信（人間文化研究機構理事）
- 趣旨説明・問題提起：奥村弘（神戸大学大学院人文学研究科長）
- 報告①「西日本豪雨の被害状況と南海トラフ地震への備えについて」：森伸一郎（愛媛大学）
- 報告②「愛媛大学の対応」：胡光（愛媛大学・愛媛ネット）
- 報告③「鳴門教育大学の対応」：町田哲（鳴門教育大学・徳島ネット）
- 報告④「和歌山大学の対応」：橋本唯子（和歌山大学・和歌山ネット）
- コメント：今津勝紀（岡山大学・岡山ネット）、山内利秋（九州保健福祉大学・宮崎ネット）、佐藤宏之（鹿児島大学・鹿児島ネット）
- 討論 司会：天野真志（国立歴史民俗博物館）
- 閉会挨拶：内田俊秀（京都造形芸術大学名誉教授）